



## 挑戦とは、自分を信じること

先日、沖縄で開催されたバスケットボールワールドカップでは、日本の男子チームがオリンピック出場の切符を手に入れました。実に48年ぶりの快挙でもあり、半世紀近い間の努力が世界への挑戦を現実なものへと変えました。男子監督に就任したトム・ホーバス監督は、テレビ中継でも視聴者の耳に届くような大きい声で選手に「ナニシテイルンデスカ！」と日本語で選手を叱咤していましたが、後のインタビューによると、監督を引き受けた時、代表選手は皆自信なさそうに見えたそうです。そこで彼は、練習中も試合中も「信じてください。信じてください、信じて、信じて」と繰り返し檄を飛ばすことで、日本代表選手に足らなかった「自分の力を最後まで信じぬくこと」をチームの原動力となるように指導し続けました。新しい指導者が「自分を信じること」を説き続けた結果、苦しい展開になればなるほど「大丈夫、この仲間となら絶対勝てる」とあきらめないエネルギーが生まれたに違いありません。私は、選手と共に闘う指揮官の姿に勇気と感動をもらい、自分を信じることの大切さをあらためて学びました。

さて、本校には、文化祭企画の一つとして、これまで多くの来場者に感動を与えてきたモザイクアートがあります。校舎4階までの壁面いっばいに飾られたアート作品の制作には、全生徒が関わるなど、他校でもあまり類を見ない大仕掛けの取組として高い評価を得てきました。今年度は、なんと世界一の大きさに挑戦することを決意し、この半年間、生徒会顧問の指示の下、生徒会役員と文化祭実行委員がリーダーシップを発揮しながら企画・準備・制作にあたりました。

「世界一を目指そう！」生徒会顧問の言葉に、最初から「できる」と思った生徒はいないでしょう。それどころか、「三鷹市にある一つの私立高校が、市、都、国を飛び越えていきなり世界を目指すなんて無理じゃないか(汗)」と不安になった人もいるはずです。

令和5年5月、いよいよ世界一への挑戦が始まりました。この夏の猛暑は、糊の濁きを加速させ、途中、何度も剥がれてしまうなど、大きさへの挑戦は、時間との闘いでもありました。

無理かもしれない、そんな焦りの気持ちも頭をよぎる中、生徒会顧問をはじめ、関わった先生方が「信じて、自分の力を信じて！」と生徒と共に貼り続けました。

残暑厳しい9月中旬、64万枚にも及んだモザイクの集合体は、見事な世界最大級の規模を誇る芸術作品として完成しました。

一人で見る夢はただの夢になるかもしれませんが、でも、みんなで見る夢は必ず実現できることを本校生徒が証明してくれました。この夢の実現こそ、学校の将来に向けての第一歩であり、今後、この作品作りが本校の代名詞として名を馳せ、広く浸透していくことを期待しています。

1.5センチ四方のモザイク片一枚一枚には、自分を信じて積み重ねてきた思いが学びの匂いとなって色とりどりに込められていました。